

平成26年第6回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成26年 9月 1日 (開会)

平成26年 9月11日 (閉会)

○議長（小林信） 次に5番 萩野芳紀君の発言を許します。5番、萩野芳紀君。

（5番 萩野芳紀議員 一般質問席登壇）

○5番（萩野芳紀） それでは、質問させていただきます。

実は6月も似たような問題を話させていただきましたが、秋田県が抱える、いや我が上小阿仁が抱える最も大事な重要な問題であると思っておりますので、あえて2回続けて似たようなことを話させていただきます。高齢者の福利厚生とこの冬の対策はということということで話させていただきます。質問の時点では4月時点のデータで通告しましたので高齢者も46、47%ということで通告書を出しましたがねその後いろいろなデータにより6月末、今時点では50%を超えたということで、65歳以上の高齢者が50%を超えたということでお話をさせていただきます。ちなみに6月末時点の我が村の人口は2592名ということです。そのような時点でお話をさせていただきます。

我が村の高齢者は先日の発表で50%を超えました。高齢化率は全県一です。秋田県が全国一なので、上小阿仁村が全国一かもしれません。

もちろん高齢者の方々は全県一元気な方々が多い。これは紛れもない事実だと思いますが、春から始まり夏、秋にかけて、その方々は色々なスポーツレクリエーションをし、元気を保っています。それを楽しみにした人達がレクリエーションに多数参加しています。前回もお話しさせていただきましたが、その中で旧沖田面小学校グラウンド、ここで自主的に整備、管理しグラウンドゴルフを楽しんでいる高齢者の方が多数います。その人達は雨が降った時はともかく冬も出来ればいいなという多くの声を聞きます。前回も聞きましたが、協議された部分もあったので改めてお話させていただきます。

そこで、冬季の運動用施設として、旧沖田面小学校体育館を利用した雨天用運動施設に転用できないかということでした。しかし、前回の回答では高床式でもあり厳しいのではないかというような回答でした。そこで今回は若干視点を変えて改めてお話させていただきます。

もし高齢者の方にそのようなことを考えてやる気があるならば、沖田面小後の体育館は、例えば、高床式で土床にするのが不可能であれば人口芝を考えると、若しくは小沢田小学校の地域センター、こちらにも体育館がありますが、この体育館を土床にして、今やっている方々は沖田面小学校の体育館でやっていただく、そのような方向で体育館を使うとかということも考えられないものかどうか、お尋ねします。

続きましては除雪の問題です。昨シーズン、除雪による高齢者の事故が秋田県内では多発しています。幸いにも、我が村においては事故も少なく、それは

それでいいと思いますが、今シーズンもそうではないという保障はありません。

2005年以前は100人以下であった高齢者事故が高齢化の原因により2005年より大幅に増加、2010年からは全県レベルで200人を超えています。これは決して我が村にも関係がないというデータではないと思います。

村長が就任以来実行している排雪、除雪の補助は例年どおり行うものか。村長の公約にもあったので実現はしていただけたとは思っていますが、どのようなものか、お答え願います。

また、高齢者の方達は補助の実施事体知らない人もいます。また、わかっているにもかかわらず高齢化により認知度が低くなることによって、今年もやっているのかなど、こういう方も、昨年まではわかっていたのですが、今年もうわかっていないという方が発生するという現実もあると思います。その上で、今年の冬もそのような方に認知させる方法を考え実行においては相談にのって欲しいと思います。それについてもお答えください

もうひとつ、最後に灯油の問題です。最近原油価格が若干は下がったと思いますが現実には高騰が続いています。この冬も灯油価格は厳しい現実が待っています。所得の多くない低所得の多い我が村において、昨年も実施した灯油購入の補助は行うものか、昨年は雪が多いということで他の市町村に追随して後追いで実行した感がありましたが、今年は早いうちに発表することで受益者に早い時点でわかってもらい、大勢の人達に利用しやすいような制度として確立してくれるように望みます。

県の動向とかを待たず、早い時点での決定を望むものであります。それを示すことにより助成額が増やせるかもしれません。何卒、スピード第一と願わずにはられません。

最後に、我が村の半分50%の人は65歳を超え高齢者であり少しでも長生きできる人が多い村であり、全県一のすばらしい高齢者が実現できるようにお願いして、私の質問をここまでにしますので、村長の答弁をお願いします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 萩野議員のご質問にお答えしていきたいなと思います。まず、第1点目に沖田面の体育館を雨天体育館として使用できないかと、もしできないのであれば小沢田と沖田面を交換してやれないかと、人工芝を敷いてやれないかというようなご質問でございます。旧沖田面小学校グラウンドについては平成23年6月20日旧沖田面小学校グラウンド及び旧野球部室使用に関する契約をグラウンドゴルフ同好会と村とで交わして、同好会の方々が使用しており、冬期間の12月から3月までは週1回トレーニングセンターを利用しています。

旧沖田面小学校は、現在、電気、水道、ガス、下水道等全ての機能が停止しており、冬季用雨天体育館として活用する場合、全ての機能を復旧させるとともに、管理費等も伴いますので雨天時においてはトレーニングセンターや地域センターの体育館を利用させていただきたいなというふうに私は考えております。

次に、高齢者の除排雪補助の件でございます。

昨年度の高齢者世帯等への除排雪の補助は、全員が70歳以上の世帯と障害者世帯、いずれも村民税の非課税の世帯を対象とし、作業費用の2分の1、限度額6万円の助成を行い、33件、58万2,806円を助成しております。この事業は平成23年度から実施しており、高齢者の冬期間における生活の安全と費用負担の軽減が図られていることから、今年度も実施を検討していきたいと考えております。ただ、この3年間やってきましたけれども、利用率があまりよくないということで議員の方々から時々指摘を受けてきました。そういった意味で高齢者が70歳、非課税というふうな形になっておりますので、その非課税を、もしかしら取り払って、70歳以上お年寄り皆が使えるのような、そういうシステムをできないかなと、これは議会と相談しながら12月議会に提案をさせていただきたいな思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

それから灯油の補助の件でございます。

昨年度の灯油購入費への助成金は、灯油価格の急激な高騰により、県が実施した「秋田県灯油購入費緊急助成事業費補助金」、補助率2分の1、ですから、県の方で2,500円を補助し、村の方でその2分の1をまた2,500円を補助して5,000円という形で、1世帯当たり5,000円の助成を行い、122件、61万円を助成しております。今年度については、今後の灯油価格の状況及び県などの対応を見極めながら、検討していきたいと考えております。

議員は、まず村から最初に手をあげて、声をあげてやったらどうかというふうなご指摘でございます。やはり灯油価格が上がって初めて生活が厳しくなるというふうに考えますので、実情に合わせた対応にさせていただきたいな考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（小林信） はい、5番、萩野芳紀君。

○5番（萩野芳紀） ありがとうございます。ぜひとも、高齢者の方に少しでも、この高齢者の方というのは上小阿仁においては低所得の方が非常に多いということはもうご存知だと思いますが、ぜひとも皆さんの支えというか、力になっていただけるよう、手助けと意味でこの補助、雪降ろし、また灯油の補助、この後においてはよろしくお願います。できれば、最初の体育館の件はもうチョットいい、進んだ回答をほしかったのですけれども、そこまで、そういう回答2回続けていただいていますので、それはそれとして自分なりには理解します。ぜひとも、このシニアパワーというか、このシニアパワーの孤立を防ぐ

意味でも補助の方においてはよろしく願いいたします。

これで最初の質問は終了です。

○議長（小林信） 5番、萩野君。

○5番（萩野芳紀） 続きましては、少子化における子どもへの補助対策ということですが、これも少子高齢化の問題、日本全国、秋田県、上小阿仁村、全てが抱えている大きな問題であります。今回は、また若干絞ったかたちでお話させていただきます。

我が村の総人口に占める子の割合は5%前後であります。将来的にも増加することはないと思います。そこで、今後の対策として給食費の無料化若しくは補助を望みますが、いかがなものでしょうか。

これ現実として、少子化対策として他の自治体も実施しているところもありますが、我が村も、もれずにできませんか。給食センターも新しくなりました。我が村は給食費も滞納などもなく健全に経営されている中で無料化はどうかという心配がないわけでもないでしょうが、無料化となると150食、だいたい300円と考えても4万5,000円、一日、これぐらいがかかるわけで、200日ぐらい考えれば1,000万円ぐらい近くはその分はかかると思います。この辺のところよく考えて見ていただいたうえで少子化対策として、少しでも子をもつ親の身になり、負担の軽減を図り子育てしやすい環境をつくるよう望むものであります。我が村だけではなく、これは全国つづうらうら市町村でも、このようなこととか、また別の少子化対策の補助、無料化は別の形でもやっていますので、少しでも目に見える部分から初めていただきたいと、このように考えております。

また、予防医学を目指す村の対応として、インフルエンザワクチンの無料化はできないものかということですが、今現在は、ワクチンの補助は子どもや高齢者にはあります。子どもにもあります。しかし、子ども達、高齢者の方、この方達は1回接種すれば1シーズンは一回で済むはずですが、このような方を今1,000円の確か補助だと思いますけれど、この補助もいらないような形でできないものか、青少年レベル、そして高齢者レベルが無理なら幼児、低年齢だけでもできないものか、回答をお願いします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 萩野議員の2つ目の少子化における子どもへの補助を対策はということで、2点、学校給食の無料化、それからインフルエンザの無料化というふうに2つの補助の関係をご質問されました。

まず、1つ目として学校給食についてお答えしたいと思います。学校給食は、学校給食法第11条の第2項の規定に基づき、教育活動の一環として実施しており、同法で給食運営の経費のうち、施設に関する費用や人件費以外の食材費は保護

者負担とすることが定められています。これは児童生徒に栄養バランスの優れた食事を提供し、成長を助けるものであることから、保護者に相応の負担をしていただくという考えに基づくもので、現在、保護者から小学生1食270円、中学生1食300円の給食費をご負担していただいております。

子育て支援の立場から子育て世代が抱えている経済的負担を軽減し、安心して子育てができる環境の整備を図っていただきたいとご質問かと思いますが、村では、児童の通学費、小中学校児童生徒各種大会出場費、新入学児童生徒のランドセル、カバンの全額補助、生徒の通学用ヘルメット、小学5、6年生の漢字検定料及び中学生の英語、漢字、数学検定料の半額補助をおこなってきております。また、中学校までの医療費の無料化など保護者の負担軽減に努めており、給食費の無料化や補助については、今後の検討課題とさせていただきたいと考えております。

次にインフルエンザの関係でございます。村では、乳幼児から中学生までの医療費の無料化や子宝祝金の贈呈、保育料の半額補助等の子育て支援を実施しております。

現在、インフルエンザの予防接種については、1回の予防接種に対し1,500円を補助しており、診療所で接種を受ける場合、2,000円の接種費用がかかりますので、500円が自己負担となっております。

インフルエンザの予防接種は、各医療機関により接種費用が異なり、また、任意の予防接種であることから、県内の自治体の状況を見ながら、この件についても検討してまいりたいというふうに考えております。

なお、給食費、例えば無料化にした場合、村の負担は600万円チョットかかります。それで、何かの費用をもし子育てとか、そういったものに費用負担を補助していくとなれば、別の項目で費用をやっぱり削減していかなければ、無制限に交付税が伸びてくる時代と違いまして、どんどん減っているという中で、やはり将来を考えていけば、今は応分の負担が必要ではないのかなと、村は結構、他の自治体と比べましていろんな面で子ども達の補助をしております。

そういった面で、一概に給食の面を取れば東成瀬村が給食費を全額補助しているというふうにも伺っておりますけれども、八郎潟町は、中学生の医療を補助するために議員の報酬を削ったというふうにも伺っております。何かを削って、何かに当てていくというふうな形をとらなければ、無制限な補助の制度は、やはりどっかで壊れるのではないかなと思いますので、もう少し学校の生徒が縮小になったりした場合には、もう少し検討していきたいと思っておりますけれども、今すぐにはというわけにはまいりませんので、どうかご理解をお願いしたいと思っております。

○議長（小林信） 5番、萩野芳紀君。

○5番（萩野芳紀） ありがとうございます。

前回と違いまして、前回はもうすぐだめと言われたわけですが、今回は検討していただけると、実行までもいかないまでも考える余地を残していただきましたので、私の質問は、これでまず今回は満足しているということで、検討課題としていただくことをお願いしまして、私の質問を終わります。

ありがとうございます。